

オオイヌノフグリ

春まだあさき冬枯れの草原に、いち早く彩りを与えてくれるオオイヌノフグリ。図鑑には花期 3～5 月とあるけれど、絨毯みたいに咲き乱れる期間という意味でしょう。実際には一年中、真冬でもちょっと陽がさせば、ちらほらと咲いています。花壇や鉢植えに侵入する困りものですが、背が低く花もきれいなので、



少しならいいかと、大目にみてもらえることもあるようです。また、ミツバチやハナアブなどにとっても、春先の貴重な食料源になっています。原産地は中東あたりようですが、いまや世界中に帰化しているそうです。

やはり帰化種で近縁のタチイヌノフグリというのも、身近にたくさんはびこっています。こちらは花が小さく、茎が 10 センチ以上立ちあがるので、みなさん躊躇なくむしり捨てていることでしょう。また、オオもタチも付かないイヌノフグリというのもあって、こちらは在来種ですが、見たことがありません。激減しているそうです。

フグリは陰囊の字があてられます。語源はフクロと同根でしょう。いったいどこが犬のフグリに似ているのかというと、果実の形だそうです。ホントかどうか、いちどじっくり見てみましょう。虫めがね片手に。